



平成 27 年 2 月 23 日

一般社団法人 小郡三井医師会
会 長 廣瀬 真恵 様

NPO法人筑後地域救急医療研究会
理 事 長 足 達



第 4 回『筑後地域救急医療研究会』開催について（ご案内）

春寒の候、貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、平素からNPO法人筑後地域救急医療研究会の活動に格別のご配慮をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、当研究会では、地域救急医療体制の向上に資することを目的に学術集会を開催いたしておりますが、このたび、下記のとおり第 4 回『筑後地域救急医療研究会』を開催する運びとなりました。

つきましては、貴医師会会員の皆様方（医師・看護師など）のご出席を賜りますようご配慮をお願いいたします。

記

1. 日 時：平成 27 年 3 月 14 日（土）13 時 00 分～18 時 30 分

※17 時 30 分～18 時 30 分の間で、杏林大学医学部救急医学講座 主任教授 山口芳裕先生をお招きし、特別講演『放射線被爆と救急医療』～東日本大震災を経験して～を開催。

※プログラムは、当日配布致します。

2. 会 場：久留米医師会館 1 階講堂

久留米市櫛原町 45 番地

小郡三井医師会より

救急災害医療担当理事 吉武靖博
会長 廣瀬真恵

平成 27 年 2 月 23 日

一般社団法人 小郡三井医師会
会 員 様

NPO 法人筑後地域救急医療研究会
理 事 長 足 達 剛



第 4 回『筑後地域救急医療研究会』のご案内

立春の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素から格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当研究会では、地域救急医療体制の向上に資することを目的に学術集会を開催いたしておりますが、このたび、下記のとおり第 4 回『筑後地域救急医療研究会』を開催する運びとなりました。

つきましては、医療機関の皆様方（医師・看護師など）のご出席を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時：平成 27 年 3 月 14 日（土）13 時 00 分～18 時 30 分

※17 時 30 分～18 時 30 分の間で、杏林大学医学部救急医学講座 主任教授 山口芳裕先生をお招きし、特別講演『放射線被爆と救急医療』～東日本大震災を経験して～を開催。

※プログラムは、当日配布致します。

2. 会 場：久留米医師会館 1 階講堂
久留米市櫛原町 45 番地

3. 参加費：500 円（当日徴収させていただきます）

筑後地域救急医療研究会 プログラム (予定)

開会の辞 13:00 ~ 13:10

筑後地域救急業務メディカルコントロール協議会 会長

久留米大学病院高度救命救急センター センター長 坂本 照夫 先生

第3回筑後地域メディカルラリー表彰式 13:10 ~ 13:20

参加医療機関 (13 医療機関)

田主丸中央病院・久留米広域消防本部 浮羽消防署チーム	新古賀病院・久留米広域消防本部 久留米消防署チーム
久留米総合病院・久留米広域消防本部 久留米消防署チーム	神代病院・久留米広域消防本部 三井消防署チーム
甘木中央病院・甘木・朝倉消防本部チーム	姫野病院・八女消防本部チーム
筑後市立病院・筑後市消防本部チーム	米の山病院・大牟田市消防本部チーム
長田病院・柳川市消防本部チーム	今村病院・鳥栖・三養基地区消防事務組合チーム
高木病院・大川市消防本部チーム	ヨコクラ病院・みやま市消防本部チーム

演題Ⅰ：救急隊部門 (30 分) 13:20 ~ 13:50

司 会 大川市消防本部

警防課長 島崎 信幸 先生

コメンテーター 社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 救急科診療部長 古賀 仁士 先生

1. 『薬剤投与を実施し社会復帰に至った症例』 みやま市消防本部 ○杉本 大輔 先生
2. 『偶発性低体温症』 柳川市消防本部 ○井上 祐輝 先生
3. 『高齢者施設で発生したCPA症例の分析』 久留米広域消防本部 ○田坂 亮 先生

演題Ⅱ：看護部門 (50 分) 14:00 ~ 14:50

司 会 社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院

諸岡 健一郎 先生

1. 『やよいがおか鹿毛病院における災害対応の取組み ～災害マニュアルの見直しをおこなって～』
医療法人 やよいがおか鹿毛病院 看護部 ○中妻 理江 先生
2. 『救急外来—病棟間の情報共有と記録充実を目指して』
地方独立行政法人 筑後市立病院 ICU 病棟 ○佐藤 真子 先生
3. 『手術中にラテックスアレルギーによるアナフィラキシーショックをきたした症例を経験して』
朝倉医師会病院 手術室 ○松尾 和宏 先生
4. 『救命救急におけるスタッフの意識とスキル向上への追求 ～一貫性のある教育活動に伴うスタッフの意識向上の大切さ』
医療法人 福田病院 看護部 ○島崎 陽介 先生
5. 『教育ツールとしてのメディカルラリーの効果』
社会医療法人 天神会 新古賀病院 ○山田 篤史 先生

演題Ⅲ：医師部門 (40 分) 15:00 ~ 15:40

司 会 医療法人 弘恵会 ヨコクラ病院

横倉 義典 先生

1. 『シートベルト損傷の一例』
医療法人社団 如水会 今村病院 ○松原 裕 先生
2. 『Segmental Arterial Mediolytic (SAM) が成因と考えられた腹腔内出血の3例』
社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 ○小出 俊一 先生
3. 『全身40ヶ所以上スズメバチに刺され多臓器不全に進展した1例』
独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO)
久留米総合病院 ○朔 周子 先生
4. 『当院における心肺停止に対するPCPS成績』
医療法人社団 高邦会 高木病院 ○中村 亜季 先生

パネルディスカッション (90 分) 15:50 ~ 17:20

『地域に根ざした災害対応～連携強化を目指して～』

司 会 久留米大学病院 高度救命救急センター (災害・危機管理) 教授 山下 典雄 先生

1. 『地域に根ざした災害対応、連携強化～朝倉医師会病院の取組み～』 朝倉医師会病院 ○渡邊 隆明 先生
2. 『災害対応の現状と今後の課題』 甘木朝倉消防本部 ○倉掛 徳 先生
3. 『大牟田市における災害対応の現状とこれから』 大牟田市立病院 ○藤野 隆之 先生
4. 『大牟田市の災害医療体制構築に向けて』 大牟田市消防本部 ○西岡 伸裕 先生
5. 『DMATと高度救助隊の連携強化に向けた取り組み』 久留米広域消防本部 ○柳 勇志 先生
6. 『病院移転にともなう救急・災害医療への備え』 医療法人 弘恵会 ヨコクラ病院 ○横倉 義典 先生
7. 『DMATと西日本高速道路株式会社 (NEXCO 西日本) との連携』
社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 ○南島 友和 先生
8. 『久留米大学病院 高度救命救急センター』 ○宇津 秀晃 先生

『放射線被爆と救急医療』～東日本大震災を経験して～

震災直後、福島第一原発に駆けつけたドクターが見た光景は・・・。

講 師 杏林大学医学部 救急医学講座

主任教授 山口 芳裕 先生

司 会 久留米大学医学部 救急医学講座

准教授 高須 修 先生

【講師紹介】

1986年 香川医科大学卒業。帝京大学、信州大学を経て、米国ハーバード大学研究員となる。

1999年より杏林大学医学部救急医学に入学。2006年より同主任教授・高度救命救急センター長として現在に至る。

《ひと言》

「日本一の救命救急センター」、これがこれまでの杏林大学高度救命救急センターの目標でした。

「日本一とはなにか」といえば、それは圧倒的な臨床能力と、実績、そしてアウトカムです。そしてこれは、今日達成されているように思われます。年間4万件の救急患者数、1万台の救急車、2千件の3次救急患者数、行政的には、厚生労働省の救命救急センター評価で常に国内トップに位置づけられています。

私にとっての日本一はまた違う側面を持っています。それは、「組織（軍団）としての」評価です。私はこれまで国内外の救命救急センターで仕事をして参りましたが、わが軍団ほど、スタッフ相互の信頼感が厚く、お互いの専門科としての資質を尊重しているところはないと思っています。救急のチームは、『7人の侍』や『水滸伝』のように、背中合わせで、多数の敵と闘うような闘い方ができるスタッフで構成されていなければなりません。

この意味で、わが軍団は日本一の軍団であると自負しています。

杏林大学医学部救急医学教室・高度救命救急センターHPより

専攻・専門分野 外科系専攻 救急医学分野

担当科目（学部） 救急医学

担当科目（大学院） 救急医学

専門分野 外科浸襲学、集団災害、外傷学、中毒学、IVR

研究テーマ 外科浸襲学、集団災害、特殊災害（NBCRE）、安全保障、重症外傷、中毒学、IVR

略歴 香川医科大学卒（昭和61年卒業）、留学経験：米国ハーバード大学MGH外科

学位 博士（医学）

資格 日本救急医学会指導医・日本熱傷学会専門医・日本外科学会専門医

論文

災害医療と臨床検査. 救急医学、伏針. 救急医学、皮下気腫. 縦隔気腫. 救急医学

急性間質性肺炎および特発性肺線維症の急性増悪時の呼吸管理. 医学のあゆみ

著書

プレホスピタルMOOK4 多数傷病者対応 『東京DMAT』

プレホスピタルMOOK9 DMAT 『東京DMAT』

救急・集中治療医学レビュー 『ショックと循環管理』

所属学会

日本救急医学会（理事）、日本熱傷学会（理事）、日本外科学会

学外活動 東海村（JCO）臨界事故被ばく患者の治療担当（1990.10）、九州・沖縄サミット首脳医療対応（2000.7）

中国 旧日本軍遺棄化学兵器（イペリット・ガス）事故対応（2004.8）、北海道洞爺湖サミット医療対応（2008.7）

APEC（横浜）医療対応（2010.11）、東京消防庁・総務省消防庁の医療アドバイザーとして福島へ（2011.3）



山口 芳裕 先生